DENSAN

PAT.P

火災感知器チェンジャー　取扱説明書

このたびは、デンサン「火災感知器チェンジャー」をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みになり指示に従って正しく使用してください。
お読みになった取扱説明書はお使いになる方がいつでも見れる所に保管してください。

特　長

●これ1つでほとんどの火災感知器が交換可能
●脚立や踏み台を使わずに火災感知器の交換ができる
●アルミ製ポールで軽く、操作しやすい

安全上の注意

⚠ 危 険　この表示は「誤った取扱いをすると人が死亡、又は重傷を負う危険性が非常に差し迫って生じる可能性がある」内容を示します

● 高圧電線が近くにある場所での使用はお止めください。感電や重大な事故の原因になる恐れがあります。

⚠ 警 告　この表示は「誤った取扱いをすると人が死亡、又は重傷を負う可能性がある」内容を示します

●ヘルメット、保護メガネ、手袋を着用して作業してください。不意の落下物等で怪我をする恐れがあります。
●ポールは垂直に立てて使用し、伸ばした状態で横倒しにしないでください。
●火災感知器の着脱作業後、必ず火災感知器が正常に動作するか確認してください。

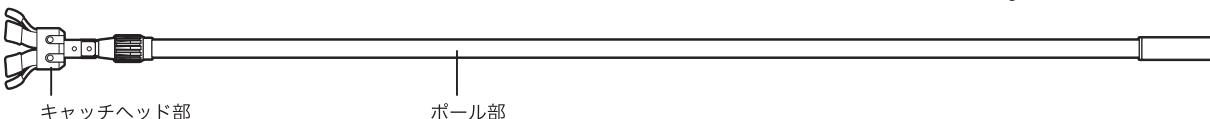
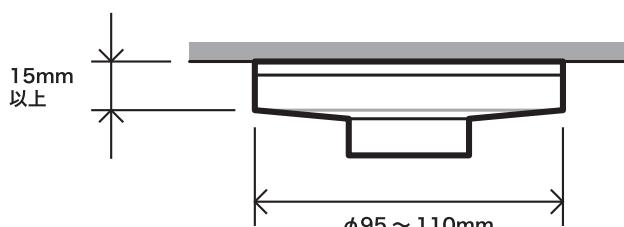
⚠ 注 意　この表示は「誤った取扱いをすると人が傷害を負ったり、物的損害が発生したりする可能性がある」内容を示します

●ご使用前に部品のゆるみがないか、破損箇所はないか等の始業前点検をして安全確認後にご使用ください。
●必要以上に締めすぎないでください。ロック機構を破損する恐れがあります。
●継手部分は軽く締めてください。強く締めると戻しトルクが大きくなり緩まなくなります。
●継手は少し緩めるだけにして、スライド抵抗のある状態でポールを押し下げてください。継手を緩め過ぎるとスライドが開放状態になり急激に落下して指をつめるなど傷害の恐れがあります。
●ポール伸長時は転倒による破損防止のため、取扱いには十分ご注意ください。
●清掃時は軽く湿った布巾で拭いてください。絶対にシンナーなどの溶剤を使用しないでください。溶剤による界面破壊を誘発しますので注意してください。
●シンナーなどの溶剤雰囲気中に長期保存しないでください。同様の界面破壊の危険性があります。

使用上の注意

●消防設備の定期点検業務はその法令が定める有資格者が行ってください。
●火災感知器の取扱説明書も併せてお読みになり、指示に従って正しく使用してください。
●適合する寸法の感知器であっても、構造や状態により取外しと取付が出来ない場合があります。
●使用場所によってポールが長すぎて余る場合は必要な段数だけを使用してください。
●気温が－10℃以下の環境では使用しないでください。
●保管に際しては直射日光のあたる場所や高温の場所を避けてください。

製品仕様

・全長(伸)：約 3.4m　・全長(縮)：約 2m　・段数：２段　・最大径：φ40mm　・質量：0.8kg

適合サイズ

●適合火災感知器サイズ：φ95～110mm(径)、高さ 15mm 以上
●最大広がり巾：φ125～140mm

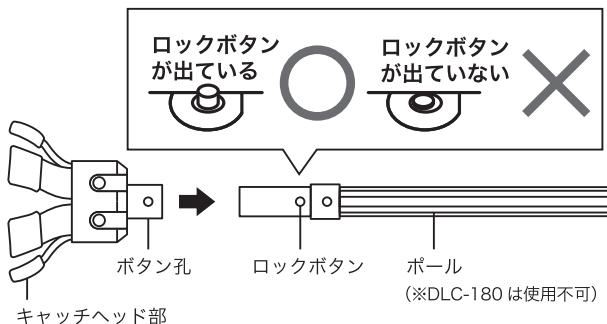
埋め込み型や薄型設計の火災感知器は適合しません。
適合する寸法の火災感知器であっても、構造や状態により取り外し、取付ができない場合があります。

使用方法

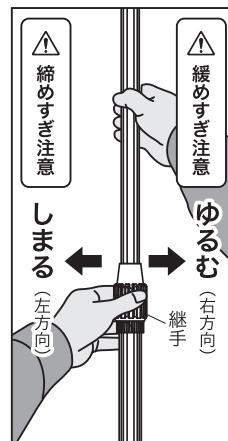
⚠ ご使用の前に　不意の落下物等で怪我をする恐れがあります。作業中はヘルメット、保護メガネ、手袋を着用してください。

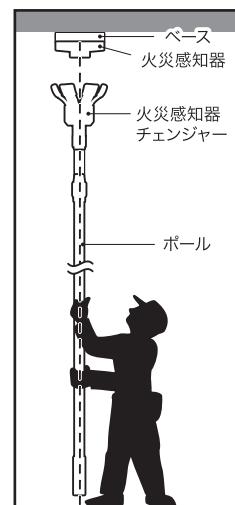
1. キャッチヘッド部の取付け、取り外し

キャッチヘッド部は取付け、取り外しが可能です。
はずす時はロックボタンを（先の細い棒などで）押して引っ張るとはずれます。
ポールのロックボタンを押してキャッチヘッド部の穴位置を合わせて挿入すると、ロックされます。（右図参照）

⚠ ロックボタンが出ていることを確認し、キャッチヘッド部を引張ってもアルミポールから抜けないことを確認してください。キャッチヘッド部が落下する恐れがあります。

2. ポールの伸縮

①継手をまわすことで固定と解除が簡単にできます。（右図参照）
②伸縮は継手をまわし、ポールを解除、固定しておこないます。
③緩める時は継手の上側のポールを持ってください。
④ポールの長さに余裕がある時は、各ポールの途中で固定してください。
　ポールを伸ばし切らない方が、安定した操作ができます。
⑤縮める際は、手元のポールから収納します。

⚠ ポールを立てた状態で継手を緩め過ぎると、開放状態になり上側のポールが急激に落下して、指をつめるなど傷害の恐れがあります。
⚠ スライド方向への過度な荷重は絶対にかけないでください。少し強い目に締めた時のスライド方向へのロック強度の限界は約 15kgf（約 147N）です。
⚠ 継手部分は指先で軽く締めるだけでロックできます。あまり強く締めると戻しトルクが大きくなり緩まなくなったり、継手の破損の原因となります。

3. 火災感知器の取外し、取付け

① 火災感知器を外す
右図のように火災感知器（以下感知器）と火災感知器チェンジャー（以下チェンジャー）が同一軸上になるようにして、軽く押しながら感知器を外す方向（左回転が一般的）へポールを回すと感知器はベースから外れます。
ポールを立てた状態でポールを縮めて感知器をチェンジャーから取ってください。
ポールを斜めにしたり、倒したりすると感知器が落下する原因になります。

② 新しい感知器の取付
右図のように新しい感知器をチェンジャーと同一軸上になるように載せてください。
ポールを立てた状態で感知器のベースに届くようにポールを伸ばしてください。
ポールを斜めにしたり、倒したりすると感知器が落下する原因になります。
チェンジャー、感知器、ベースが同一軸上になるようにして、軽く押しながらねじ込んでください。

〒579-8014　東大阪市中石切町3-13-16

ML1ADC